AIコスト適正化（AI FinOps）支援

AIの投資対効果を高めるためのコストの可視化・適正化

KPMGは、AI活用の拡大に伴い複雑化するコスト構造を可視化し、その適正化と、AIによる付加価値の創出に向けた環境整備を支援します。利用状況やコストの把握、需要予測、アーキテクチャ設計の最適化、統制・運営の定着までを一貫してサポートし、AI活用のさらなる拡大と適切なコスト管理の両立を目指します。

AIコスト構造の複雑化に伴う全体像把握の課題

生成AIやAIエージェントの活用が、個別部署の業務効率化やPoC（概念実証）の段階から、全社規模での本番運用へと広がるなか、AIにかかるコストの適切な管理が重要になっています。

AIコストは、AIの利用者数やユースケース数だけ決まるものではありません。AIエージェントによる多段階の推論や再試行、外部ツール・サービスの呼び出しなどによって増加する直接コストのほか、AIの導入・運用・統制、業務変革や人材育成などに伴う間接コストも生じます。こうした複雑なコスト構造の全体像を把握したうえで、AIコストを可視化・最適化し、AI活用の拡大と適切なコスト管理を両立させる「AI FinOps」の実践が求められています。

AIコストの3層構造

業務変革・人材育成コスト 社内の業務見直し、研修、スキル習得 等	**間接コスト**
導入・運用・統制コスト システム導入、保守、利用ルール整備 等	
AI利用コスト トークン・API利用料、ライセンス料 等	**直接コスト**

サービスの特徴

直接・間接コストを含む「AIコストの全体像」を可視化

トークンやAPI利用料等の直接コストに加え、導入・運用・統制、業務変革や人材育成のコストまでを3層の構造で捉え、AI投資にかかる総コストを可視化します。

AIコスト管理フレームワークに基づく体系的なアプローチ

KPMGのAIコスト管理フレームワークの5つの視点に基づき、可視化・診断から実装・定着までをエンドツーエンドで支援します。

統制だけでなく「設計」でコストを適正化（Cost by Design）

利用上限の設定や部門への配賦といった統制にとどまらず、モデルルーティング（用途に応じたAIモデルの使い分け）やRAG（検索拡張生成）の精緻化等の適正化手法に関する知見を活かし、アーキテクチャの設計段階からコスト適正化を図ります。

成果とコストを結びつけ、AI投資判断を支援

ユースケースごとの成果指標を設定し、成果当たりのコスト（Cost per Outcome）を明確化することで、CDO（最高デジタル責任者）・CIO（最高情報責任者）・CFO（最高財務責任者）がAI投資の採算性とROI（投資対効果）を継続的に評価できる仕組みを構築します。

© 2026 KPMG Consulting Co., Ltd., a company established under the Japan Companies Act and a member firm of the KPMG global organization of independent member firms affiliated with KPMG International Limited, a private English company limited by guarantee. All rights reserved.

AIコスト管理フレームワーク

KPMGのAIコスト管理フレームワークは、「AI資産の把握」「契約・課金モデル」「需要予測」「コスト監視」「統制・最適化」の5つの視点で構成されています。この5つの視点に基づき、可視化・診断から実装・定着までをエンドツーエンドで支援します。

AIコスト管理フレームワーク（5つの視点）



支援内容

企業のAI活用状況や課題に応じて必要な支援内容を組み合わせ、コストの可視化・診断から管理・統制の仕組みの実装・定着まで一貫して支援します。「現状把握・ルール整備」「AIコストの可視化および目標の定義」「ガバナンス構築」の3つのフェーズで段階的に進め、その後は、成果当たりのコスト（Cost per Outcome）等の指標を活用しながら、AI投資の成果とコストを継続的に評価・改善するサイクルの構築につなげます。

フェーズごとの支援内容

フェーズ 1 | 現状把握・ルール整備	フェーズ 2 | AIコストの可視化および目標の定義	フェーズ 3 | ガバナンス構築
• 直近のAI利用に関する請求情報を収集し、部門・ユースケース別に分類 • シャドーAI（管理対象外のAI利用）を特定 • AI資産カタログを作成 • AIゲートウェイ／API管理によりユースケース・チーム・環境ごとにタグ付けを実施 • AIモデル別のトークン単価ベースラインを設定	• AIコスト配賦ダッシュボードを構築・公開 • 本番ユースケースごとに、利用量（トークン数・呼び出し回数・GPU時間）をコストに換算し、成果指標と結びづけ • 部門・ユースケース別の月次予算を設定	• 予算消化率の閾値を設定（70%・90%到達時の日次自動アラート等） • AIエージェントによる監視を実装（日次チェック等） • 予算超過時のエスカレーション経路を設計 • AIコスト管理のレビューサイクルを確立 • 高コスト・低価値・非効率な処理に対する支出閾値の設定や、一定の条件で処理を停止する仕組みを試験導入

KPMGの強み

クラウドのコスト適正化（Cloud FinOps）の知見

AIと同様にコスト変動性の高いクラウドのコスト適正化で培った知見を、AIコストの管理に応用します。

財務・会計およびAIガバナンス等の専門知識

財務・会計およびAIガバナンス等の専門知識を活用し、AIにかかるコストの全体像を可視化します。

コストの把握から統制・運営の定着まで支援

AIの利用状況やコストの把握、需要予測、アーキテクチャ設計の最適化、統制・運営の定着までを一貫して支援します。

本リーフレットで紹介するサービスは、公認会計士法、独立性規則及び利益相反等の観点から、提供できる企業や提供できる業務の範囲等に一定の制限がかかる場合があります。詳しくはKPMGコンサルティング株式会社までお問い合わせください。

KPMGコンサルティング株式会社

T: 03-3548-5111
E: kc@jp.kpmg.com

kpmg.com/jp/kc

ここに記載されている情報はあくまで一般的なものであり、特定の個人や組織が置かれている状況に対応するものではありません。私たちは、的確な情報をタイムリーに提供するよう努めておりますが、情報を受け取られた時点及びそれ以降においての正確さは保証の限りではありません。何らかの行動を取られる場合は、ここにある情報のみを根拠とせず、プロフェッショナルが特定の状況を綿密に調査した上で提案する適切なアドバイスをもとにご判断ください。

© 2026 KPMG Consulting Co., Ltd., a company established under the Japan Companies Act and a member firm of the KPMG global organization of independent member firms affiliated with KPMG International Limited, a private English company limited by guarantee. All rights reserved. C26-1058

The KPMG name and logo are trademarks used under license by the independent member firms of the KPMG global organization.